
sakura

結衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

sakura

【ZPDF】

Z2020M

【作者名】

結衣

【あらすじ】

小学生の頃から千春は引っ込み事案な性格だったが、中学生になつたらこの性格を直したいと思っていた。…そんな時、美咲から書記の推薦があった。この性格を直すには絶好のチャンスだが、一体千春はどう答えるのか！？(episode1より) 中学生の気持ちが素直に表れている作品です。是非、ご覧下さい。

episode 1 book in letter

「書記に神崎千春さんを推薦します！」

といつ声が、一年五組の教室で、威勢よく手を上げた佐藤美咲の口から出た瞬間、背筋に冷たいものが滑り落ちた気がした。

あわてて顔を見つめるが、美咲は千春の方を見ないで、真っ直ぐ黒板を見つめ続ける。

「理由は、昔から字が上手だからです。小学校が一緒なんだけど、その頃から何回か書記やってたもんね？」

尋ねる時だけ、千春の方を見る。千春はどつ答えて良いか分からず、顎だけゆつくり引いて頷いてしまった。確かにそうだった。だけど、そうやって引き受けた書記は自分から立候補した訳ではなく、その時だつて誰かから推薦されてそなつたのだ。

「じゃあ、神崎さん、どうですか？」

すでに委員長に決まった岡本結衣が前で言つ。小学校の違う彼女は、まだ知りあって間もないクラスメートだつたが、その結衣から「神崎さん」と急に名前を呼ばれると、お腹の奥がぎゅうっと緊張したように痛くなる。

背が高くさらつとした首筋までのショートカットの髪は、いかにも昔から運動をやつていそうな雰囲気だ。それはきはきした物言いや、何より入学して一週間足らずの新学期の教室で、堂々と手を上げて委員長に立候補するなんて、千春には想像も出来ないくらいの活潑さだった。

「私……」

気後れしながらも立ち上がると、クラスの全員が自分を見るのを感じた。足がすくんだ様になる。

(断らなきや)

小学校の頃から、いつもそうだつた。自分の意見がはつきり主張

出来ない事を、両親や先生からは注意されていたし、誰かから頼まれ事をすると千春はそれをなかなか断る事が出来ない。中学に入つたら、そんな自分の性格を直したいと思つていた。

「どう? 神崎さん。書記の仕事…嫌?」

担任の先生までが言つ。

仕事が嫌なのではなくて、こいつやって流されてしまうのが嫌なのだと告げようとするが、大勢の人を前にしたら、どう言えば良いのか分からなくなつた。代わりに口から「やります…」といふか細い声が出た。

前の結衣がにっこりと笑つた。

「ありがとうございます。じゃあ、書記は神崎さん。早速だけど、前に出て黒板に書くのを代わつてもらつて良いですか?」

「…はい」

返事をして前に行く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2020m/>

sakura

2010年12月30日03時48分発行